

Close-UP

「同じ志を持った仲間とインフラの老朽化問題に立ち向かう」。この決意を胸に、2024年7月に現在の持ち株会社体制を確立したリライフメンテホールディングス（中央区）。河川や道路、鉄道に架かる橋梁とともに送電鉄塔の塗装工事を主力とし、さまざまな工事領域への拡大を図りながら、社会を支える企業のグループ化を目指す。その経緯や具体的な取り組み、今後の展望などを、山本融代表取締役CFOに聞いた。



リライフメンテホールディングス（中央区）
代表取締役CFO

やまもと とおる
山本 融 氏

インフラの老朽化から大惨事となった八潮市の

ていることは疑いの余地はない。そこで立ち上げ

した各社への採用支援、個社ごとの課題解決のためのプロジェクトマネジメント、プランディング活動などの充実も図っていく。「われわれの株主は投資ファンドだが、彼らの持つネットワークを活用することにより、ホールディングス機能を充実させ、社会にインパクト

から上場会社など国内外を問わず、さまざまな局面でマネジメントを経験してきた。その目は、「インフラメンテナンスの領域は、それぞれの分野で強みを持った会社が多いが、グループ化によりまだまだ成長する余地は十分にある」とみる。そういった特徴のある会社を受け入れ、「日本でもユニークな、総合インフラメンテナンsgループに発展させる」ことを主眼に置く。それが自らに課せられた使命だと捉え、「理念や思いを丁寧に伝え、一社でも多くの仲間を増やしたい」。その決意で、さらなる事業領域の拡大を図る考えだ。

ユニークな総合インフラグループを目指す

道路陥没事故。インフラメンテナンスは待ったなしの状況だが、「世間の問題意識はまだ薄い。分かっているけど先送りしているようでもどかしい」と危機感を募らせる。圧倒的な人手不足が影響し

たのがインフラを守る企業のためのプラットフォームだ。具体的には、ホールディングスとしてM&Aを加速させることで、志を同じくする会社の受け皿となっていく。また参画

トのある企業グループを創造していきたい」と将来を見据える。山本氏はかつて総合商社を振り出しに、ソフトウェア開発会社の経営や化粧品会社の海外法人トップを歴任。ベンチャー

（東京支局＝山下雄一）